

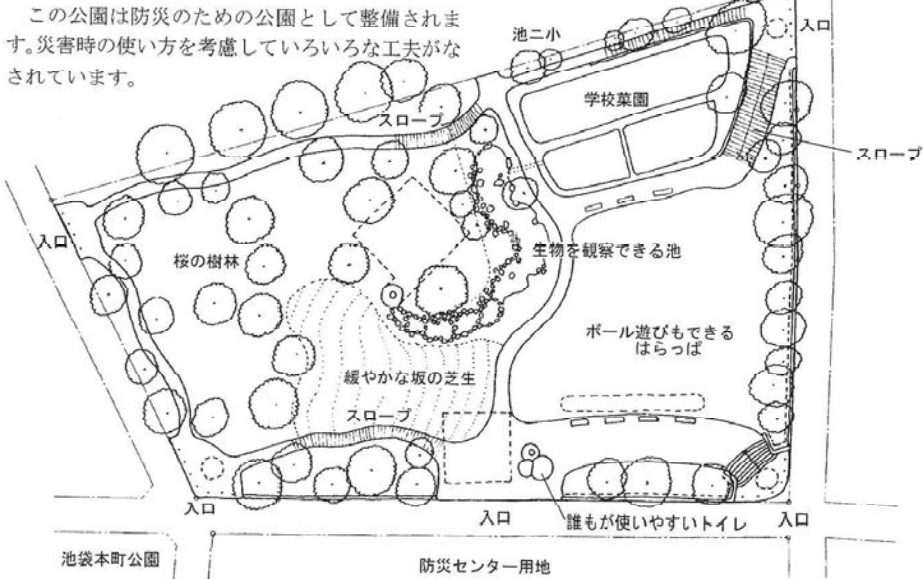
防災ひろば 計画案完成

とりあえず 4000 m²

今回の提案は2つの敷地の池二小側、4000 m²の敷地を対象としています。引き続き、来年度は2000 m²の敷地の使い方を検討します。

防災のための公園

この公園は防災のための公園として整備されます。災害時の使い方を考慮していろいろな工夫がなされています。



名所となる公園

一方でこの公園は、例えば桜の名所にするなどして、豊島区の名所になるようにします。それによって、大勢の方々に親しんでいただくことができ、地域の活性化につながることも期待されます。

誰でもが親しめる公園

防災ひろばの会には、身体障害者の団体の代表者にもご参加いただき、ご意見を伺いながら、誰もが親しめる公園づくりをめざしています。

自然系とはらっぱに

ひろばについてのアンケート調査

防災ひろばにできる新しい公園に関するアンケートには、108名の方から回答をお寄せいただきました。ご協力いただいた方にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

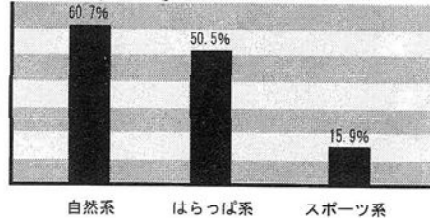
アンケートでは新しくつくる公園の目標と、会から提案した3つの案に対するお考え、公園に必要なもの、不必要なものを伺いました。

まず、公園の目標では、「子供がのびのび遊べる」ところ(51.4%)、「樹木や水など自然体験・ふれあいができる場所」(48.6%)という回答が多く、地区に少ない子供の遊び場や自然を求め方が多くいらっしゃいました。次いで「家族や様々な人が楽しめること」(35.5%)、「お花見・庭園など季節の変化を鑑賞できる場所」(30.8%)と多くの方が親しめる場所を求めていることが判りました。

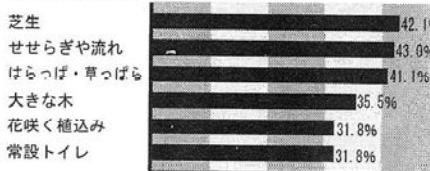
3つの案へのお考えでは、自然系の公園(60.7%)を望む方が最も多く、僅差ではらっぱ系の公園(50.5%)となり、スポーツ系の公園(15.9%)を大きく引き離しました。

必要な施設では自然系の施設が上位を占め、逆に不必要な施設ではスポーツ系や犬・猫の関係が上位を占めました。

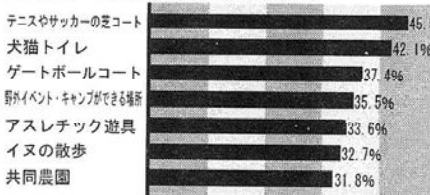
● 3つの案への考え



● 公園にほしいもの (30%以上)



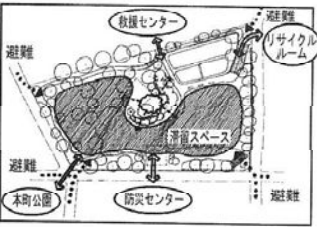
● 公園に不必要なもの (30%以上)



災害時の使い方あれこれ

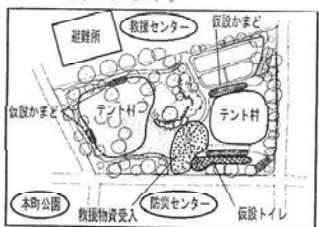
● 災害発生直後

災害が発生した直後から公園は一時避難する人の集まる場所となります。救援センターや防災センターとの連携を取りながら、池二小校庭や池袋本町公園と一体になって、地域の方々が安全に避難できるようにします。



● 避難救援期

大規模な火災の危険が去ると、救援センターは避難所となります。いろいろな事情で団体生活になじみず、公園で車やテントを使って暮らす人も出てくるのが予想されます。公園はそのような人のために使われます。



● 復旧復興期

復旧・復興が始まると公園は仮設住宅の建設場所として使われます。この仮設住宅の配置は多少効率が悪いものの、樹木に覆われ、また共有の広場を囲むように配置され、そこに暮らす人々の暮らしやすさに配慮しています。



● 防災設備

さまざまな水を確保するため、深井戸、雨水貯留、雨水井戸、5tと100tの貯水槽、水道本管直結の飲用水槽を設置しています。また、耐震化された下水道本管に接続した仮設トイレやソーラー照明を設置します。



石ひろいと草取りと腐葉土置場

ひろってもひろっても無くならない石。「やる意味ある？」なんて声もチラホラ。でも葉っぱもたくさん落ちてくるし枯草も。廃材を使わせてもらえるって。それならひろばに腐葉土置場をつくっちゃおうと、12月2日、子どもと大人約50人が参加。石ひろい組、葉っぱひろい組、そして材木切り組、組み立て組に分かれて作業開始。ギョギョントンと快い(?)音。この大きな葉はタンスの桐の葉だったのカフーン。集めた落ち葉は大きなシートに広げて葉っぱの海に。次々にダイビングしていく子ども達の笑顔。落ち葉ってお陽さまと土の香りがする。あそび心は、やりとりの中から生まれ広がり、育っていくようだ。(大畑嘉子)

